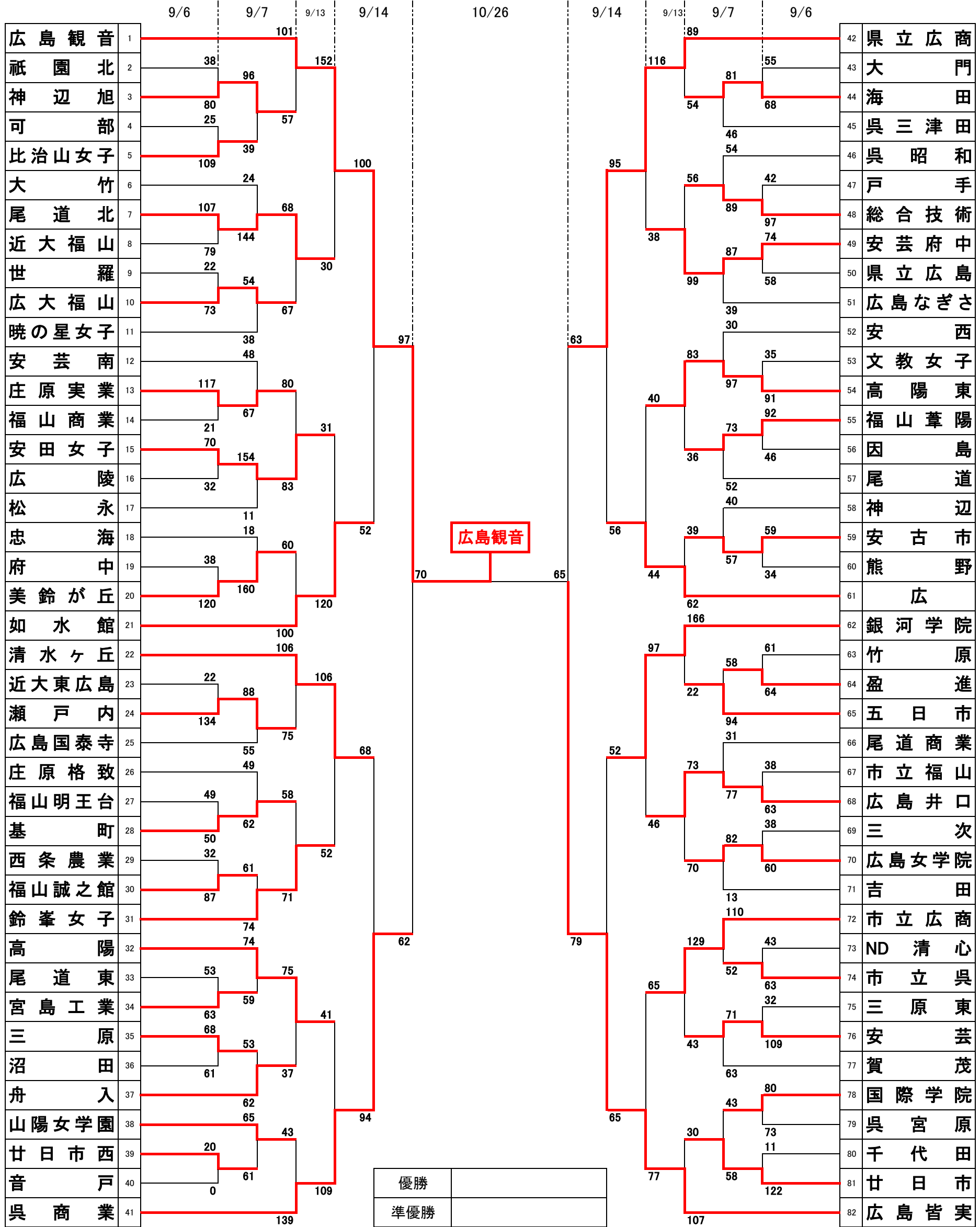


平成26年度 広島県高等学校秋季バスケットボール大会  
 兼 第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会広島県予選(女子の部)



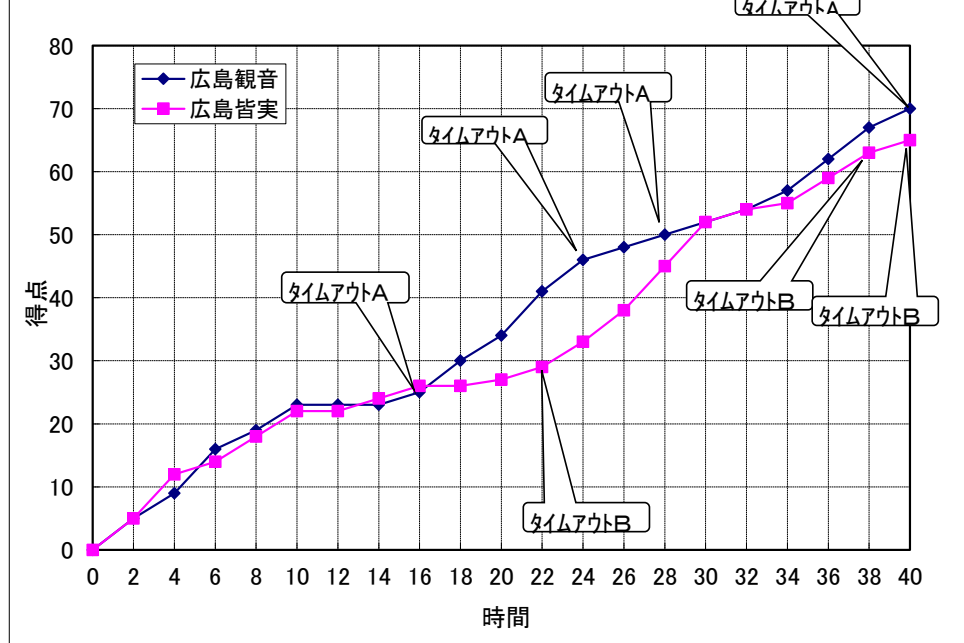
平成26年度広島県高等学校秋季バスケットボール選手権大会  
第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会 広島県大会

試合日	平成26年10月12日
開始時間	12:00~
会場	広島市東区スポーツセンター
コート	O
試合順	第1試合(決勝)

TeamA:		TeamB:
広島観音	23 - 22 11 - 5 18 - 25 18 - 13	広島皆実
70		65

広島県高体連バスケットボール部[公式ボックススコア]

2分ごとの得点推移



TeamA: 広島観音

No	S	選手名	PTS	3P		2P		FT		F
				M	A	M	A	M	A	
4	x	佐々木 智彩	14	4	10	1	5			1
5		高島 葉月	7	1	1	2	4			1
6	x	園田 祥子	8	2	6	1	5			3
7	x	山田 莉々	24			11	14	2	5	4
8		藤本 玲花	0							
9	x	福原 凜	14			7	17			4
10		小松 菜奈	0							
11		登 優雅	0							
12		岡田 彩華	0							
13		満足 星華	0							
14	x	飯山 佳奈	3	1	2	0	3			1
15		西林 希	0							
16		立石 琴乃	0							
17		谷岡 優里	0							
18		岡 桃	0							
Coach										
合計			70	8	19	22	48	2	5	14
RATE				42.1%		45.8%		40.0%		

TeamB: 広島皆実

No	S	選手名	PTS	3P		2P		FT		F
				M	A	M	A	M	A	
4	x	池岡 理菜	15	0	3	6	18	3	4	2
5		飯田 実	0							
6	x	安達 美咲	16	2	3	3	16	4	6	0
7	x	久保 佑美	8			4	7	0	1	2
8		高野 千晶	0							
9		外山 里穂	0							
10		武田 菜葉	0							
11		平田 綾	0							
12		小松 晶	0							
13		澤村 朋香	5	1	1	1	2	0	2	1
14		高橋 愛実	0							
15		西谷 佳純	0							
16		井上 優美	0							
17	x	竹内 優香	20	2	4	6	12	2	2	0
18	x	出野 友佳	1			0	2	1	2	4
Coach										
合計			65	5	11	20	57	10	17	9
RATE				45.5%		35.1%		58.8%		

【戦評】

観音④⑥⑦⑨⑭、皆実④⑥⑦⑩⑱、両チームともマンツーマンで試合開始。序盤、観音は④の3P、皆実は⑦⑬の3Pで加点する。観音は⑦のインサイドと④⑥のアウトサイド、⑨のミドルショットでオフェンスを組み立てる。皆実はドリブルスクリーンから④⑥の1対1で加点する。観音は⑦のリバウンドが強く、リバウンドからの速攻、リバウンドショットでリズムをつくる。皆実もディレイドオフェンスからファールをもらうなどして着実に加点し、両チーム譲らず23-22観音リードで1Q終了。2Q、ディフェンスは変わらずマンツーマン。両チームセットオフェンスでの得点が無く、シュートミスもあり、3分ノーゴールで試合が進む。皆実⑬のフリースローで得点が動くが、観音⑦のゴール下シュートで加点する。しかし、両チームとも得点が無く、観音が残り3分でTO。TO後、観音⑦のリバウンドショット、⑦⑨のハイローなどで連続して加点し、34-27で2Q終了。3Q観音は⑨⑤のジャンプシュート、⑦のバスケットカウントで加点する。観音がフリースロー後にオールコートマンツーマンディフェンスを仕掛け、皆実がミスから失点をしたところで43-29となり、皆実TO。TO後観音④が3Pを決めるが、皆実はディレイドオフェンスを継続し、流れが来るまで我慢する。皆実⑥の3P、⑦のドライブ、パスカットからの速攻などで流れを掴み、10点差としたところで観音1回目のTO。TO後も皆実ペースで試合が進む。残り2分⑦のブレイクからのカウントショットで観音⑦が4回目のファールとなったところで観音TO。TO後観音はディフェンスをゾーンに切り替えるが、皆実⑩の3Pで皆実が逆転する。観音も得点し、52-52の同点で終了する。4Q、開始から得点の取り合いになり、一進一退の攻防が続く。観音は④⑥の3P、皆実は⑥のジャンプシュートやドライブからのフリースローで加点する。観音は⑤のドライブインが決まり、67-63とし、次の皆実のオフェンスが失敗したところで、残り1分30秒皆実TO。TO後皆実⑱のドライブインで65-67とするが、観音は⑭のドライブから⑦へのあわせで65-69とする。次の皆実のオフェンスで⑱のレイアップにいすが、観音⑦がブロックショット。残り23秒皆実はTOをとり、ファールゲームを仕掛けるが点差は縮まらず70-65観音勝利で試合終了。

主審	大谷 英紀	第1審	皆川 義紀	第2審	望月 公平
記入者	小松 広道				